

製品名: C1QBP ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07724**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	32kDa

抗原情報

遺伝子名	C1QBP C1QBP; GC1QBP; HABP1; SF2P32; Complement component 1 Q subcomponent-binding
別名	protein; mitochondrial; GC1q-R protein; Glycoprotein gC1qBP; C1qBP; Hyaluronan-binding protein 1; Mitochondrial matrix protein p32; p33
遺伝子 ID	708.0
SwissProt ID	Q07021
免疫原	抗血清はヒト C1QBP 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 61-110

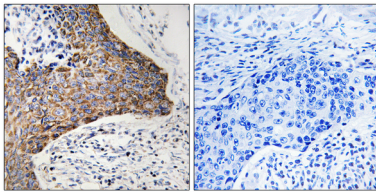
背景

ヒト補体サブコンポーネント C1q は、C1r および C1s と会合して血清補体系の第一成分となる。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、C1q 分子の球状頭部に結合し、C1 の活性化を阻害することが知られている。このタンパク質は、プレ mRNA スプライシング因子 SF2 の p32 サブユニット、およびヒアルロン酸結合タンパク質としても同定されている。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、注意：当初 (PubMed:1830244 および PubMed:8262387) はプレ mRNA スプライシング因子 SF2 の p32 サブユニットであり、エクソスキッピングの防止、スプライシングの精度確保、および選択的スプライシングの制御に関与すると考えられていた。、機能：不明。C1Q の球状の「頭部」に結合し、C1 の活性化を阻害します。、類似性:MAM33 ファミリーに属します。、サブユニット:風疹ウイルス capsid タンパク質と相互作用します。、

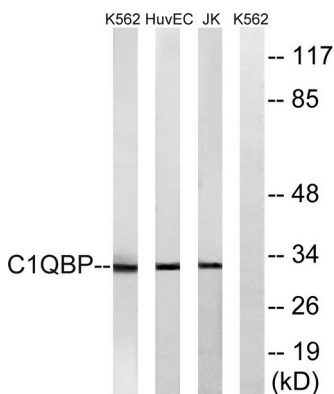
研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達

画像データ



C1QBP 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト扁桃組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



C1QBP 抗体を用いた Jurkat 細胞、HUVEC 細胞、K562 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



C1QBP ポリクローナル抗体を 1: 1000 に希釈して様々な細胞をウェスタンブロット分析した。